

1.調査の目的

一般社団法人 日本オフィス家具協会では、2012年に企業の経営層に対し、オフィスに関する考え方や満足度を分析するためのアンケート調査を行い、「経営層が重視する投資項目は、人材育成投資」であること、「オフィスに関する支出は投資である」ことを明らかにした。これらの調査結果を踏まえ、2014年には、日経ニューオフィス賞受賞企業に対し、インタビュー調査を行い、その結果から、「経営層が共感できるオフィス投資の効果」を明示した。

本調査では、2012年、2014年の調査結果を踏まえ、

- ①「ワーカーは、どのような「働き方、オフィス」で働きたいと思っているのか」
- ②「今、改善・改革（のために投資）すべきオフィス環境の課題は何か」
- ③「改善・改革（投資）を行うことで、どのような効果を得ることができるのか」

をワーカーの目線から明らかにし、効果的なオフィスへの投資を行うための、今後のオフィス環境改善の重要要件を明らかにすると共に、オフィスに対するワーカーニーズとワークスタイル、ワークプレイス変革に向けた提言を行い、ワーカーが個々の能力が発揮でき、意欲的に、積極的に成果を生み出し、企業業績向上に貢献するワークプレイスづくりや、やりがいや達成感を得ることのできる、心身ともに健康的に働くことができるワークプレイスづくりに寄与することを目的としている。

2.調査実施概要

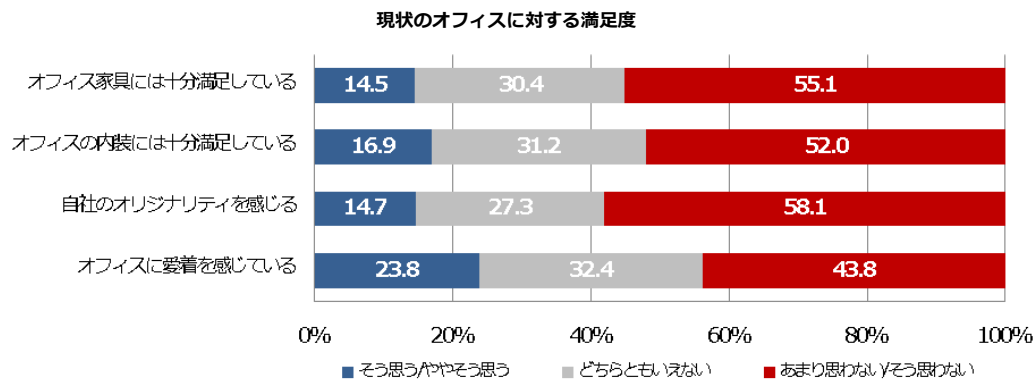
一般社団法人 日本オフィス家具協会が、インターネット調査にて実施した。調査対象は、首都圏に存する事業所に勤務するワーカーとし、25設問139項目に対する回答を依頼した。調査は2016年7月に実施し、3316の有効回答を得た。

3.調査により得られた事実と課題の概要

①オフィスに対する満足度・期待

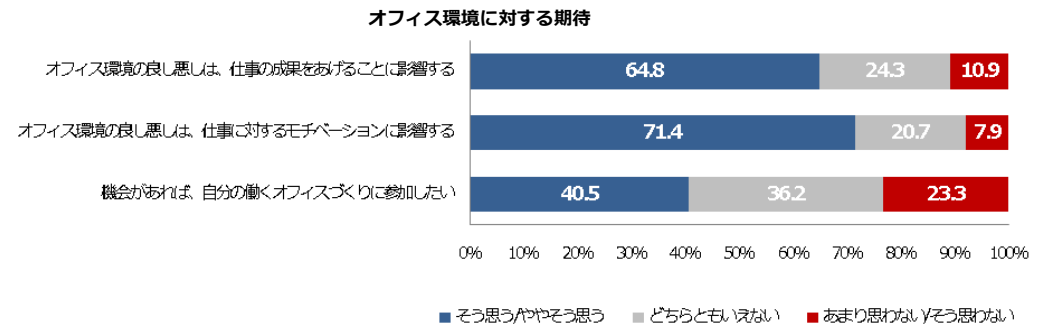
「オフィス環境（家具や内装）に対する満足度は極めて低い」（家具に対する満足側の評価：14.5%）

- ・現状のオフィス家具やオフィスの内装に対する満足度評価は、極めて低い。オフィス環境が、自社のオリジナリティを表出していない現状もうかがえる。



「オフィス環境は、仕事の成果や仕事に対するモチベーション向上に影響を与える」（71.4%が回答）

- ・多くのワーカーが、オフィス環境が仕事の成果や仕事に対するモチベーション向上に影響すると認識しており、オフィス環境改善の適正な施策により、オフィス環境に対する満足度を向上することで、仕事に対するモチベーションを高め、仕事の成果向上に結びつけることに寄与できるものと考えられる。



②現状オフィスにおける課題

「個人業務の効率性を上げるスペースやレイアウトをワーカーは重要視している」

- ・集中度・広さ・使いやすさの評価が高く、イノベーションを起因するといわれるメンバーとの関係性項目においては、会議室等の具体的な機能空間は高いが、インフォーマルなもの、グループワークを促進するといった項目の評価は低い。

「効果の得やすいモノや身体に触れるモノについてワーカーは注視している」

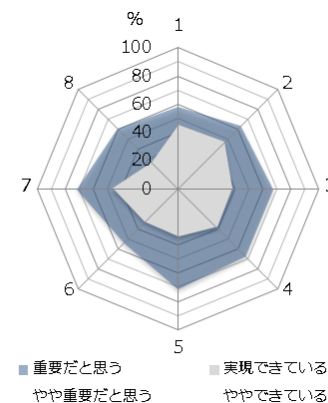
- ・机/イスといった普段から触れている家具については重要度は高いものの満足度が低いことから、適切な製品の提供により満足度を高めることが出来ると推測される。

「私物の端末を活用したBYOD(Bring Your Own Device)の認識は極めて低い」

- ・現実的には業務用途で個人のスマートフォンを使用したり、何かの調べものをしたりという行動はすでに「個人用途・業務用途」が混在しているのが実態であるが、BYODに関する認識の低さが特徴的である。

「安全性や快適性は重要だと認識されているが、これらへの対策は十分に施されてはいない」

- ・安全性及び快適性に関する項目には総じて高い重要性を認識しているが、その対策の実現度は低い。また、オフィスにおける、ダイバーシティへの対策の必要性が一般にはまだ浸透していないことがうかがえる。

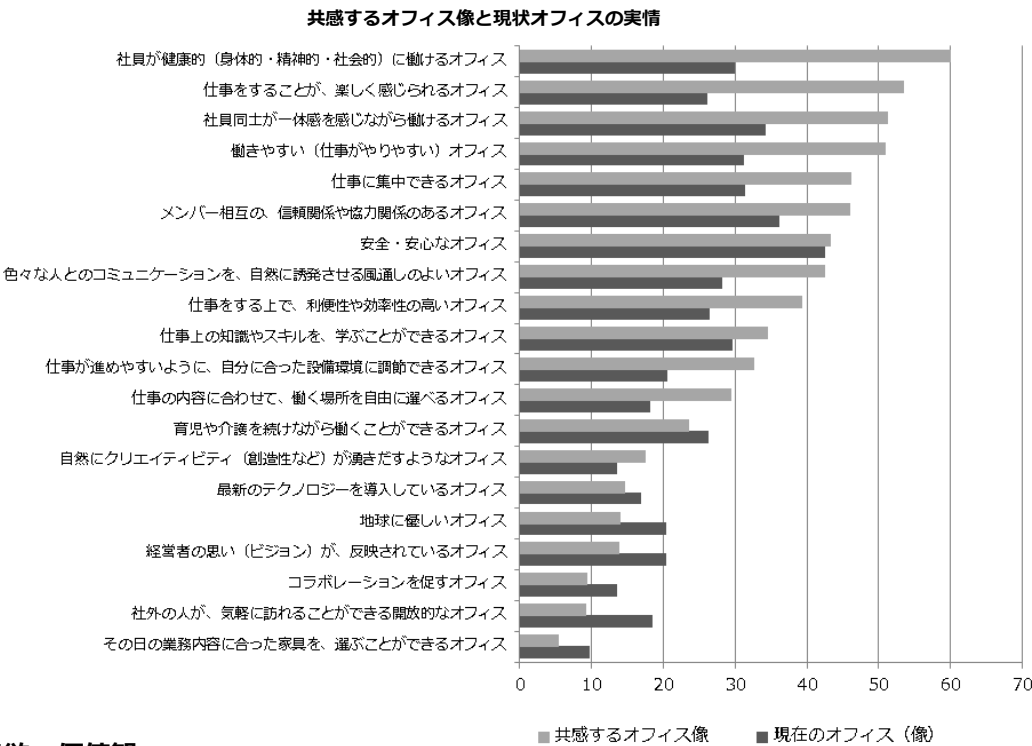


オフィスの家具やツールに関する各項目の重要度・実現度に対する肯定的回答者比率

- 1 会議・ミーティングなどで、ICT設備が必要なときに利用できること
- 2 会議・ミーティングなどで、ホワイトボード等の書きながら情報を共有する備品が必要なときに利用できること
- 3 自分の仕事や身体に合った、机の広さが確保されていること
- 4 自分の仕事や身体に合った、机の高さが確保されていること
- 5 仕事で使っている椅子の座り心地が良いこと
- 6 遠隔地との会議を、スムーズに行える装備が用意されていること
- 7 ICTツール（パソコン、携帯端末など）が、十分に配備されていること
- 8 書類の収納庫が、十分に用意されていること

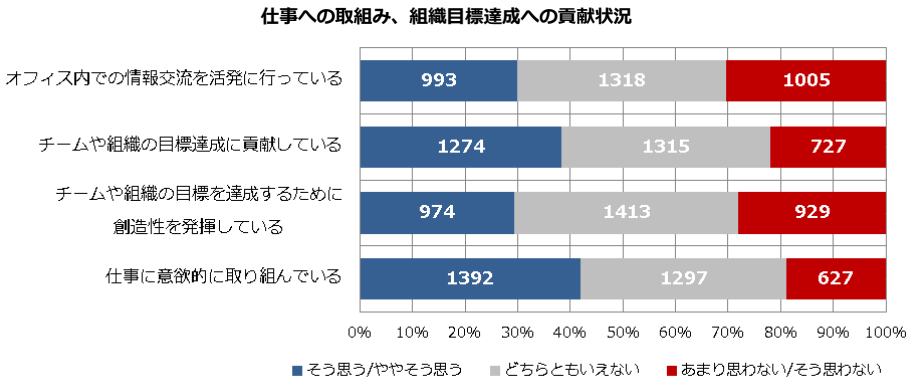
③共感するオフィス像

「心身ともに健康的に働く（60%）・仕事が楽しく感じられる・一体感・仕事のしやすさ」・オフィスにおける一体感の醸成といった旧来からの環境改善テーマに加え、健康や楽しさといった観点からの環境づくりが、ワーカー目線からも必要である。「社員が健康的に働けるオフィス」「仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス」「働きやすいオフィス」「社員同士が一体感を感じながら働けるオフィス」「メンバー相互の、「仕事に集中できるオフィス」であることは、「仕事の成果をあげること、仕事に対するモチベーションを向上させること」に寄与するものと類推できる。



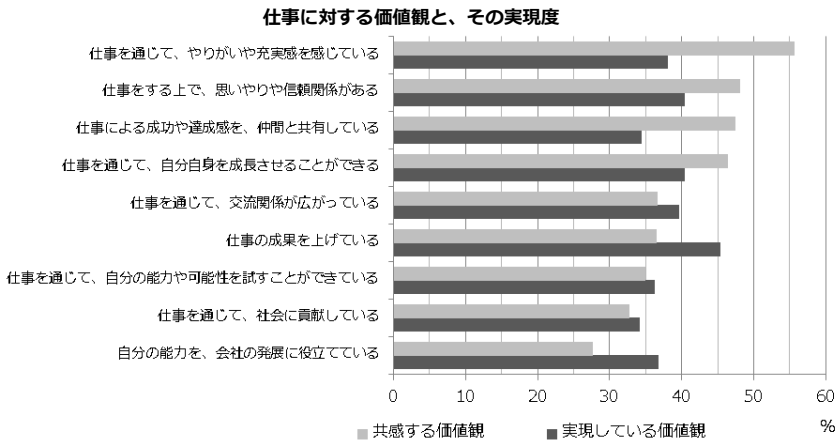
④成果・意欲・価値観

「創造性を発揮していると感じているワーカーはまだまだ少ない」（発揮しているワーカー30%）・目標達成への貢献、創造性の発揮、意欲的な取り組みを実現できているワーカーは半数に満たない。どのようなオフィス環境・運用上の工夫が、ワーカーの行動変革に寄与するのかを明らかにすることが重要である。



「仕事を通じたやりがいや充実感を求めているが、現実にはギャップがある」（実現できている：4割弱）

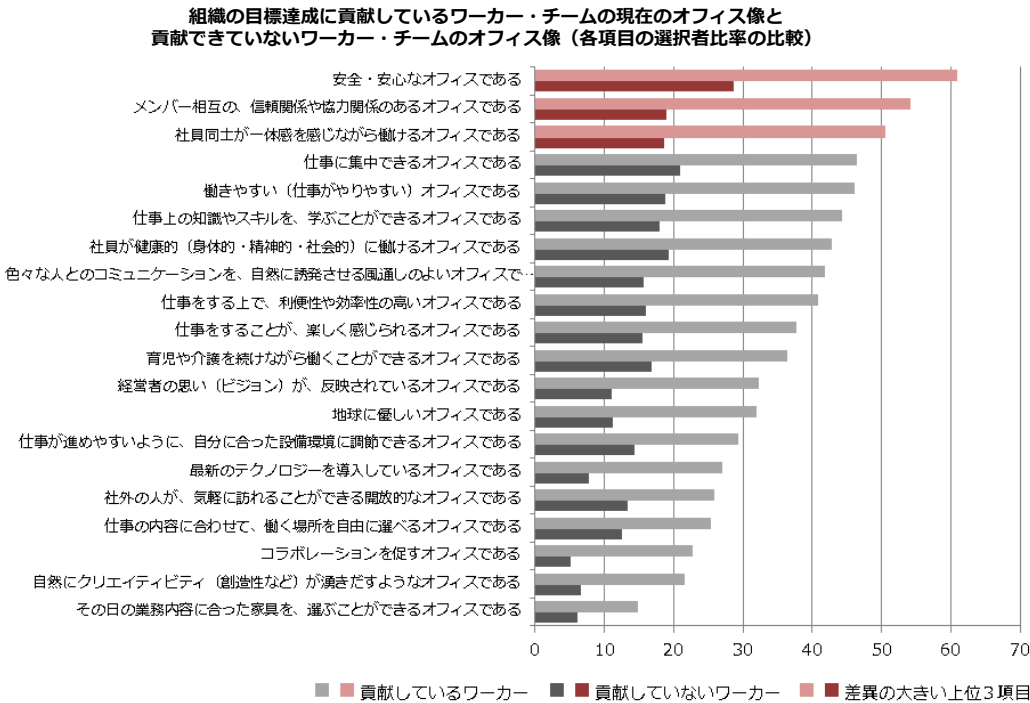
・共感する価値観の上位は、「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じている」「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある」「仕事による成功や達成感を、仲間と共有している」である。仕事を通じてやりがいや充実感を感じることを求めているワーカーは多いが、それを十分に実現できていないという現状が見える。



⑤目標達成・創造性発揮・意欲的取り組みを実現しているオフィス

「キーワードは、信頼関係・一体感・安心安全」

・意欲的に業務に取り組み、創造性を発揮させ、チームや組織の成果の達成に貢献していく上で、オフィス環境の果たす役割は小さくはない。現状オフィスの評価結果からみると、成果の達成、創造性の発揮、意欲的な取り組みを支援する環境要件は、安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスということである。



「オフィス環境はワーカーやチームの成果や意欲、創造性の発揮に影響を与える」

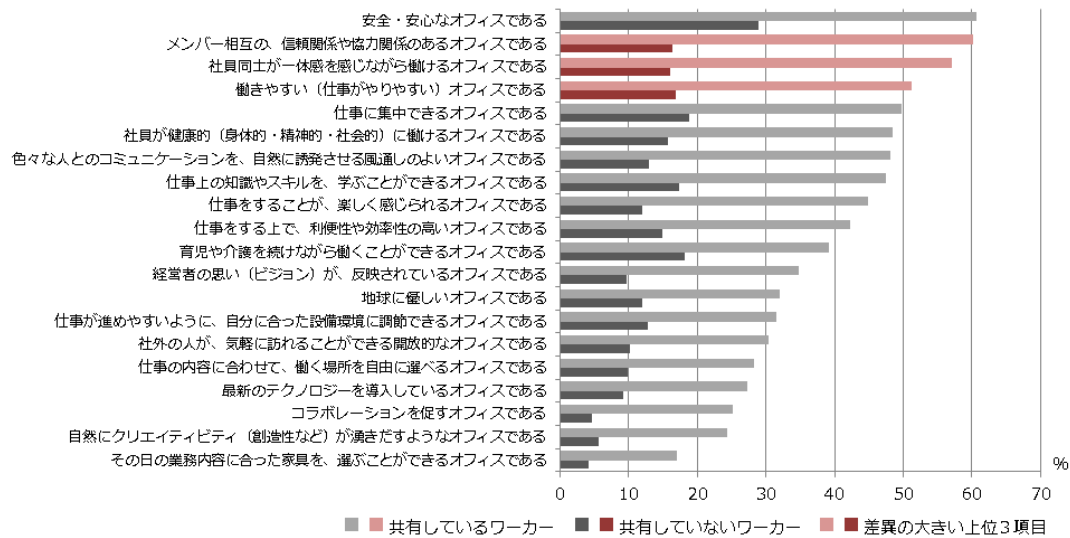
- ・成果や意欲、創造性を発揮しているワーカーやチームのオフィスは、スペースやレイアウト、家具やツール、利便性・効率性、安全性・快適性において、彼らの活動をサポートする、施策や配慮が行われている。オフィスにおける家具やツールの装備状況、利便性や効率性への配慮を基本的な性能とし、気軽なコミュニケーションと集中して仕事をするための工夫が行われていることが重要であり、更にこれからは、積極的なグループワークのための場の用意や、ダイバシティ、心身の健康面への配慮が求められている。

⑥価値観を実現しているオフィス像

「信頼関係・一体感・働きやすさ」

- ・オフィス環境そのものにより、達成感の共有や信頼関係の醸成、やりがいや充実感の獲得を提供することはできないが、それらを実現しやすい環境やツールのセッティング、運用面のケアのためのしくみといった観点から、さまざまなサポートはできる。オフィス環境は、共感する仕事に対する価値観として高い支持を得た上位3項目「仕事による成功や達成感を、仲間と共有する。」「仕事をする上で、思いやりや信頼関係がある。」「仕事を通じて、やりがいや充実感を感じる」の実現に少なからず影響を与えてる。安心して働ける安全性という基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら働くことのできるオフィスづくりがその一例である。そこでの活動では、価値観が共有され、同一の目標に向かうことで、より高い成果を生み出すことが可能となる。

仕事による成功や達成感を、仲間と共有していると感じているワーカー・チームの現在のオフィス像と、そう感じていないワーカー・チームのオフィス像（各項目の選択者比率の比較）

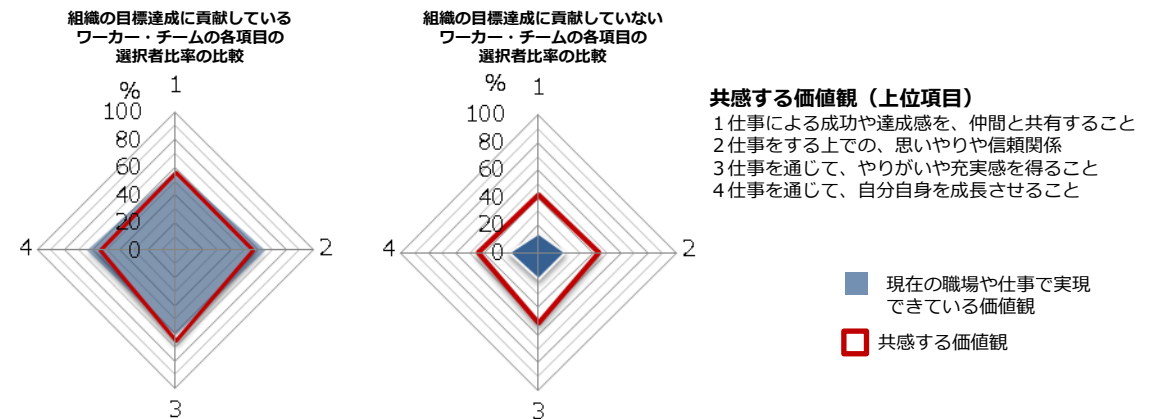


- ・価値観を実現するオフィスでは、家具やツールの適正な装備、利便性や効率性への配慮を基本的な性能を有し、気軽なコミュニケーションと集中して仕事をするための工夫が行われている。更にこれからは、積極的なグループワークのための場の用意や、ダイバシティ、心身の健康面への配慮が求められているといえ、成果・意欲を発揮しているオフィスの特徴と同様である。

⑦成果・意欲を発揮するためのオフィスづくりの視点、価値観を実現するためのオフィスづくりの視点

「価値観が満たされることが、創造性や成果の発揮につながっていく」

- ・「社員が健康的に働ける」「社員同士が一体感を感じながら働ける」「仕事をするのが楽しく感じられる」といったオフィスへの環境改善が、仕事に対する意欲的な取り組みや、その結果としての目標達成への貢献に、強く影響するものと考えられる。その前提としては「仕事に集中できる」「働きやすい」オフィスという、基本的な要件が実現されていることである。



「心身ともに健康的に働く・一体感・楽しさ」

- ・「社員が健康的に働ける」「社員同士が一体感を感じながら働ける」「仕事をするのが楽しく感じられる」といったオフィスへの環境改善が、仕事に対する意欲的な取り組みや、その結果としての目標達成への貢献に、強く影響するものと考えられる。その前提としては「仕事に集中できる」「働きやすい」オフィスという、基本的な要件が実現されていることである。

⑧共感するこれからの働き方

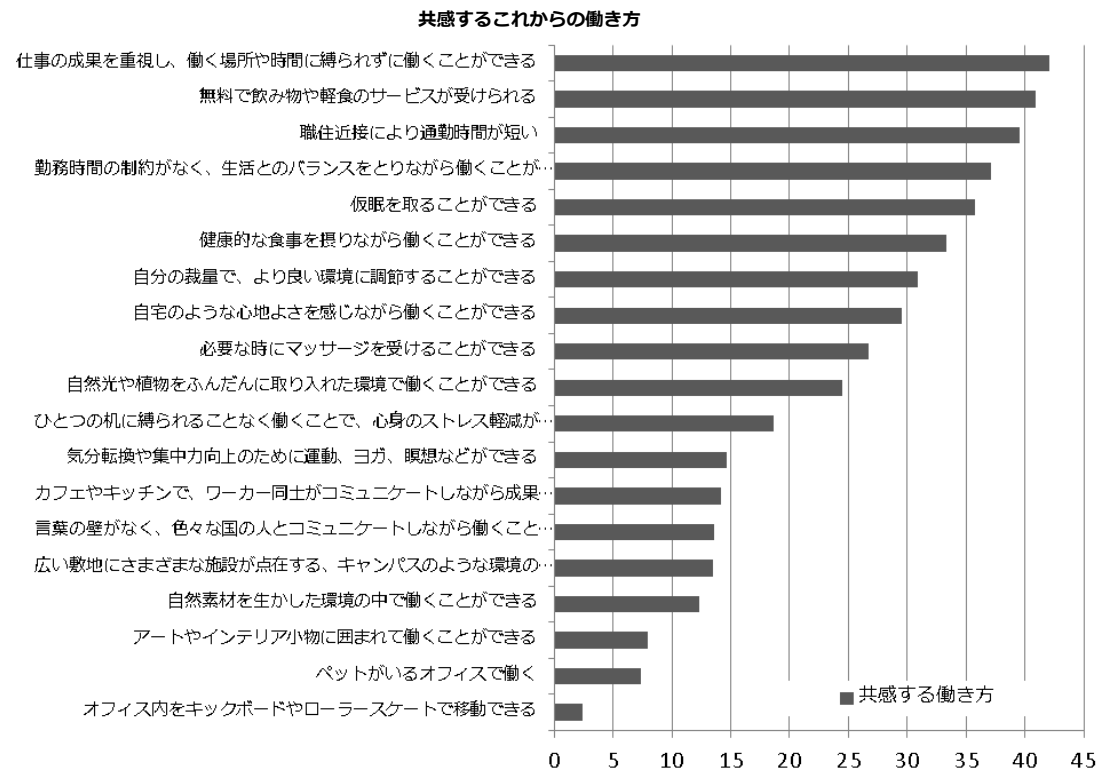
「働き方変革への期待 ～ ABW 」

- ・4割（選択肢の中で最大の支持率）を超えるワーカーが「仕事の成果を重視し、働く場所や時間に縛られずに働くことができる」ことに共感し、魅力を感じている。仕事の成果を達成するために、働き方を変えたいという、潜在的なニーズがあるものと思われる。また、「勤務時間の制約が無く、生活とのバランスをとりながら働くことができる」についても、4割弱のワーカーが選択。ワークライフバランスを同時に考慮した働き方の変革を考えていく必要がある。

「オフィスにおける健康問題はワーカーにも経営層にも重要なテーマ」

「意欲的なチーム・組織は、健康やワークライフバランスに対する意識も高い」

- ・ワーカーにとって生活時間の大半を過ごすオフィスでの健康問題は非常に関心の高いテーマであり、健康経営などの課題と相俟って経営層にとっても今後ますます重要視されることと思われる。目標達成に意欲的に取り組み、チームや組織に貢献的な取り組みをしている人は健康やワークライフバランスなどに対する意識も高いことがうかがえる。



⑨オフィスにおける健康行動

「健康に対する意識が高くても行動が伴っておらず、積極的な仕掛けが必要」

- ・ワーカーの健康に対する意識は高い。しかしながら、日常の活動において、健康を意識して行動しているとはいえず、また、調査結果は、長時間座り続けている実態を示している。目標達成に意欲的に取り組み、チームや組織に貢献的な取り組みをしているワーカーでは、オフィスにおいて健康行動をとっているワーカーの比率が高く、成果や意欲にとって、積極的に体を動かすことが良い影響を及ぼしていることが推測される。

⑩オフィスに対するワーカーニーズと経営への貢献につながる解決課題

- ワーカーにとって共感するオフィス像とは、**組織としての目的を共有することで一体感や信頼関係があり、人と人との交流が活発に行われ**快適で、自然と歩き回りたくなるような仕掛けにあふれた働きやすい空間。**なによりそこで働くことが楽しく感じられ、自分自身が成長していると実感できるオフィス**であるといえる。

- 安心・安全で健康的かつ楽しく働きやすい環境を整備することが、仕事に対するモチベーションアップに繋がり、結果仕事の成果をあげることになる。**健康を強く意識したオフィスの環境整備及び家具什器への積極的な投資は、最終的に企業の業績向上に繋がるものであると同時に、企業イメージの向上、ブランディング効果も期待される。

- 基本性能としての家具やツールのレベルを担保しつつ、継続的に改善・改良を行うことが重要であり、自社に見合った基本性能を満たした家具やツールを導入することが、経営に貢献すると理解すべきである。**また、BYODの導入を積極的に検討する事を働きかける事が企業全体のセキュリティ問題がないかを見直すきっかけになり、ひいては経営への貢献の一端になる。

- オフィス環境以外にも多くの要因はあるものの、オフィス環境の状態が、仕事に対する意欲や成果に何らかの影響を与えているものと考えられ、オフィスへの期待と共感するオフィス像から、「**社員が健康的に働けるオフィス**」「**仕事をするのが、楽しく感じられるオフィス**」「**働きやすいオフィス**」が**オフィス環境整備上の重要なテーマ**である。

- それぞれの企業、オフィスにより具体的な改善施策に違いはあるが、「**安全・安心で働きやすいのか**」「**信頼関係・一体感は醸成されるのか**」「**健康的に働けるのか**」「**仕事を楽しく感じながら働けるのか**」が、今後の**オフィス環境（への投資）の重要な視点**であり、現状の**オフィス環境を見直す視点**である。

- 「**安全で安心して働け、仕事がやりやすいという基本的な性能を有し、メンバー相互が信頼や協力関係のもと、一体感を感じながら健康的に働くことで、仕事をするのが楽しく感じられる**」オフィスでの活動では、**価値観が共有され、その結果同一の目標に向かうことで、個々の能力や創造性が発揮され、より高い成果を生み出すことが可能。**そのためのワークスタイルのひとつは、「**働く場所や時間に縛られない**」働き方である。その時ワーカーは**仕事の成果を重視し、生活とのバランスを取りながら活動し、個々の能力、チームの能力を発揮し、意欲的に取り組むことができる。**

「クリエイティブ・オフィス」にせよ「オープン・イノベーション」にせよ、現時点でこれらは、先端を行く企業、あるいはごく限られた職種の働き手に対してのみ有効なソリューションだということを調査結果から再認識させられた。今後も数多くの業種と数多くの企業に向けて、創造性のさらなる発揮を喚起する活動を継続していかなければならない。

共感するワークスタイルとして抽出された「仕事の成果を重視し、働く場所や時間に縛られずに働くことができる」働き方や、「心身ともに健康的に働ける」オフィスの実現により、ワーカー一人ひとりの能力の発揮を促し、チームとしての成果に結びつけ、結果として企業経営への貢献に繋がるワークプレイスの普及・啓発に、努力を惜しんではいけない。